

## 海底水温を用いたズワイガニ漁場の予測

### 1 背景・目的

ズワイガニは本県の冬の味覚を代表する水産物として、県と県漁協が連携し、雄を加能ガニ、雌を香箱ガニとしてブランド化の取り組みを推進している。ズワイガニは、主に水深 200～500m の海域で底びき網漁業により漁獲されるが、雄ガニが多く分布する水深帯は年によって異なる。このため、本研究では、雄ガニの分布量と海底水温の関係を明らかにし、本種の漁獲効率向上に活用することを目的とする。

### 2 技術のポイント

- (1) 底びき網に小型の水温センサーを取り付け、得られた海底水温データと1網ごとの雄ガニの漁獲尾数を解析した結果、水温 0.5℃～3.5℃の海域が漁場として利用されており、特に水温 0.6℃～1.6℃の海域で雄ガニが多く漁獲されている(図1)。
- (2) 漁業者が船上で海底水温データを読み取れる水温センサー(JFEアドバンテック製 Smart-Act(図2))を底びき網に取り付けることで、雄ガニが多く分布する漁場をリアルタイムで予測でき、より効率的に漁獲することが可能になる。

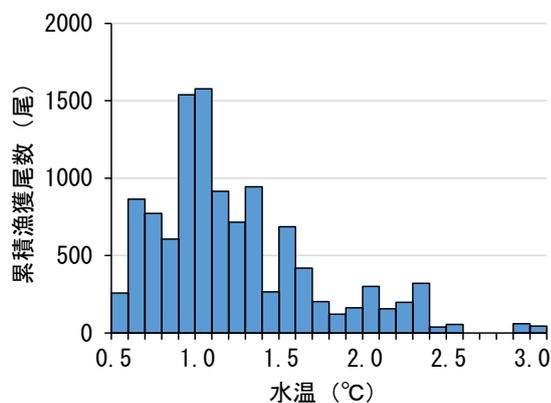


図1 水温別雄ガニ累積漁獲尾数

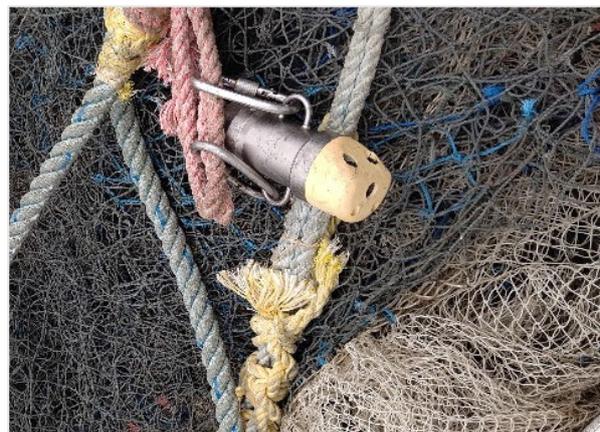


図2 底びき網に取り付けたセンサー

### 3 成果の活用と留意点

- (1) 雄ガニの分布量が多い漁場を選んで効率的に操業することで、操業回数の削減につながり、漁労支出の削減が期待できる。
- (2) 今後、雌ガニの分布と水温の関係についても明らかにすることで、漁獲の効率化が期待できる。

問合せ先：水産総合センター TEL 0768-62-1324  
担当者：内藤 隆介